

## 2017年 新年に想う

2017年1月4日

九州工業大学学長 尾家祐二

新年おめでとうございます。

昨年は、4月に学長に就任し、国際連携協定の締結等のために5か国8大学を訪問しました。各大学の学長等とお会いし、連携の継続、さらなる強化について確認することができました。11月末には、200年の歴史を持つグランゼコール（フランスの高等教育機関）の一つであるサンテティエンヌ国立高等鉱山学院を訪問した際に、隣町のリヨンの空港を経由しました。リヨン空港は、別名サン・テグジュペリ空港と呼ばれています。サン・テグジュペリといえば、「星の王子様」の次の一節を思い出される方も多いでしょう。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目には見えないんだよ」。

目に見えないものの力については、多くの本で多くのことが語られています。明治時代、福沢諭吉は「学問のすすめ」の中で、「目見るべからず、耳聞くべからず、売買すべからず、貸借すべからず」「真にこれを文明の精神というべき至大至重のものなり。けだしその物とはなんぞや。いわく、人民独立の気力、すなわちこれなり」と述べています。また、村上春樹著「海辺のカフカ」では、次のように。「すべては想像力の問題なのだ。僕らの責任は想像力の中から始まる。イエーツが書いている。In dreams begin the responsibility — まさにそのとおり。逆にいえば、想像力のないところに責任は生じないのかもしれない。」小川洋子著「博士の愛した数式」では、数学者である博士との会話の中で。『「真実の直線はどこにあるか。それはここにしかない。』博士は自分の胸に手を当てた。虚数について教えてくれた時と同じだった。」数学では直線は無限に延びるものとして定義されており、それは、想像の中にしか存在しません。経済の分野でも、ユヴァル・ノア・ハラリ著「サピエンス全史—文明の構造と人類の幸福」において、「2006年に全世界の貨幣は合計約473兆ドルだったが、硬貨と紙幣の総額は47兆ドルに満たない。貨幣の合計の9割以上（私達の会計簿に記載されている400兆ドル以上）は、コンピュータのサーバ上にだけ存在する」ことが指摘されています。貨幣への信頼等に基づき、情報システム上でお金が動いています。抽象的な理論、制度、組織も含み、目に見えないもの、触知できないものが、実際に、私達の社会活動等と繋がり、それらを動かしていることに気づきます。

新たな1年を想うとき、未来は過去、現在の延長線上にあるというより、新たに築いていくものであると感じ、その未来に関わるためには、目には見えませんが、築きたい未来への想像力と、それを実現する意志力が必要になると考えます。

この1年、学内の想像力とそれを実現する意志力を集め、学内外の方々、国内外の多様な組織との相互作用を通し、学術及び社会の発展に貢献する活動を推進したいと思います。

皆様方にとりまして、今年が、多くのよき機会に恵まれ、実り多き年となりますようにお祈りいたします。本年も何卒よろしく申し上げます。